

1 安全・安心で、元気あふれるまちづくり

評価欄の凡例	◎：進捗率100%以上
	○：進捗率50%以上 100%未満
	△：進捗率50%未満

No.	区 分								2 0 2 5 年 度								2 0 2 6 年 度				
	大項目	中項目	小項目	具体的な取組	指標・目標値の考え方	再掲	取組シート	担当課	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度計	目標値（年度）	進捗率	評価	成果・課題等	取組方針等		目標値（年度）	
1	1	(1)		「自助・共助・公助」のバランスが取れた防災訓練を実施しよう！	【指標】 防災訓練を実施した地区数 【目標値の考え方】 毎年、「二葉」「福木・温品」「戸坂」「牛田・早稲田」の4つのエリアのうち、1地区で訓練を実施している。今後も同様な形で訓練を継続する。		P10	起こし	1	1	1	1	4	4 地区／年	100%	◎	【成果】 「二葉」「福木・温品」「戸坂」「牛田・早稲田」の各エリアにおいて、全て訓練を実施した。 また、13地区ある自主防災連合会のうち9地区で訓練等が実施され、防災意識の向上が図られた。 【課題】 防災への取組状況には地区間で差が見られることから、今後は、特に防災活動が十分に行われていない地区に対し、より手厚い支援を行っていく必要がある。	引き続き、この取組を進めるとともに、防災活動が活発でない地区を重点対象とし、訓練の企画や関係機関との連携強化など、より手厚い支援を行うことで、地区間の取組格差の解消を図る。		4	地区／年
2	1	(2)		要支援者を地域で支えよう！	【指標】 対象者のうち、危険区域に居住し、かつ、家族等に支援を受けられない方について、個別避難計画を作成した人数 【目標値の考え方】 2024年度の作成人数を各エリア10人として40人としていることから、毎年度40人以上を目標とする。		P11	起・支	0	8	23	19	50	40 人以上／年	125%	◎	【成果】 「牛田新町」「早稲田」「矢賀」「福田」については、全ての取組対象者の個別避難計画を作成することができた。また、いずれの学区においても、対象者の心身の状況、居住地の災害危険性等を勘案した個別避難計画を作成することができた。 【課題】 心身の状況や避難の支援をする人がいないなどの理由により、個別避難計画を作成できない対象者が固定化しており、民生委員やケアマネジャー等の協力を得て、個別避難計画を作成する必要がある。また、電話や訪問を行っても連絡が取れない対象者がおり、個別避難計画の作成意思を簡易的な文書で確認する方法で、個別避難計画の作成支援を行う必要がある。	引き続き、地域起こし推進課と地域支えあい課の地区担当職員が連携し、個別避難計画を作成する。 心身の状況や避難の支援をする人がいないなどの理由により、個別避難計画を作成することが難しい対象者については、民生委員やケアマネジャー等の協力を得て、個別避難計画の作成を進める。		40	人以上／年
3	1	(3)		市民主体のまちづくりを推進する「ひろしまLMO」づくりに取り組もう！	【指標】 「ひろしまLMO」の認定地区数 【目標値の考え方】 広島市では、2028年度までに全地区でのLMO認定を目指していることを踏まえ、2028年度までの目標達成に向け、毎年度1地区ずつ認定地区を増やす目標とする。		P12	起こし	8	9	10	10	10	10 /13地区	100%	◎	【成果】 「戸坂しろやまLMO運営委員会」及び「尾長地区まちづくり活性化支援委員会」が設立された。 【課題】 全地区での「ひろしまLMO」設立に向け、未設立地区への支援を行う必要がある。	関係部署と連携し、未設立地区における「ひろしまLMO」設立に向けた支援を行っていく。		11	/13地区
4	1	(4)	(ア)	地域の安全は地域で守ろう！	【指標】 防犯カメラ設置補助制度を活用した設置台数 【目標値の考え方】 2014年度からの6年間における設置台数の平均が約5台／年であることから、年間5台以上の設置を目標とする。		P13	起こし	0	0	4	9	13	5 台以上／年	260%	◎	【成果】 申請のあった13台（福田2台、温品4台、戸坂2台、矢賀5台）いずれも補助金が交付決定され、全て設置を完了した。 【課題】 設置地区に偏りがあるため、未設置地区を中心に制度の周知を図る必要がある。	地区によって設置台数に偏りがあるため、未設置地区を中心に制度の周知を行い、年間5台以上の設置を支援する。		5	台以上／年
5	1	(4)	(イ)	防犯灯でまちを明るくしよう！	【指標】 防犯灯の新規設置か所数 【目標値の考え方】 過去3年間の平均で、区役所が新規設置する防犯灯が15か所、町内会が市からの補助を受けて新規設置する防犯灯が5か所のため、毎年度20か所の新規設置を目標に取り組む。		P14	維持管理	8	0	5	0	13	20 か所／年	65%	○	【成果】 令和7年度は合計13か所の防犯灯を新規設置し、進捗率が60%を超え概ね目標とする成果を上げることができた。	今後もさらに地元住民からの依頼や要望に寄り添い、地域における危険な場所等を確認した上で、防犯灯の設置推進を通じて、安心安全なまちづくりに寄与していく。		20	か所／年
6	1	(5)		交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させよう！	【指標】 交通安全街頭キャンペーン・自転車交通マナー教室の開催数 【目標値の考え方】 年間で交通安全該当キャンペーン・自転車交通マナー教室の開催数		P15	起こし	2	2	1	1	6	6 回以上／年	100%	◎	【成果】 交通安全運動街頭キャンペーンについては、春（4月）、夏（7月）、秋（9月）、年末（12月）に開催した。また、自転車交通マナー教室については、5月に城北中学校において、3月に「広島東安全・安心フェスタ」において実施した。 【課題】 自転車交通違反の厳罰化等を踏まえ、交通マナーを向上させる内容を検討する必要がある。	交通事故の件数は年々減少傾向にあるが、「ながらスマホ」などの交通マナーの低下（特に若年層）などが指摘されているほか、自転車の交通違反が厳罰化されているため、街頭キャンペーン等の開催を通して交通安全に対する意識の向上を図る。		6	回以上／年

2 みんなで支え合うまちづくり

区 分									2 0 2 5 年 度							2 0 2 6 年 度							
大項目	中項目	小項目	具体的な取組	指標・目標値の考え方	再掲	取組シート	担当課		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度計	目標値（年度）		進捗率	評価	成果・課題等	取組方針等		目標値（年度）		
2	(1)		認知症支えあいカフェを広めよう！	【指標】 認知症支えあいカフェの設置か所数 【目標値の考え方】 第9期広島市高齢者施策推進プランの目標値の考え方を踏まえつつ、2023年度実績の設置か所数21か所から、毎年度1か所程度の増加を目指す。		P16	支えあい		23	23	23	24	24	23	か所	104%	◎	【成果】 地域のインフォーマルな社会資源として年々数か所ずつ増えている。全小学校区に設置済。 単なる認知症カフェにとどまらず、多世代交流、障害のある方との交流に発展している。	現在、1か所立ち上げ支援を関係機関が実施している。設置場所の増加だけでなく、多くの方が集えるような支援（広報や運営の在り方の助言、多分野多世代への展開等）を行う。		24	か所	
									実績値は延べ数														
2	(2)		地域の介護予防活動に参加しよう！	【指標】 通いの場の参加者数 【目標値の考え方】 国が目指している通いの場への高齢者の参加割合（8%）を第9期広島市高齢者施策プランも同様に目標値と定めていることを踏まえつつ、2025年度は、東区の高齢者人口約32,000人のうち8%の2,560人の参加を目標とし、東区では毎年度約100人の高齢者人口の増加見込みのため、8人ずつ参加者数を増やすこととする。		P17	支えあい		2,491	88	56	44	2,679	2,560	人		105%	◎	【成果】 通いの場も年々数か所ずつ増えており、伴って参加人数も増えてきている。 地域住民が主体的に運営しており、地域の見守り体制の一助にもなっている。	・通いの場の周知を積極的に行うとともに、より多くの方が通いやすいように運営の助言等を行う。 ・運営者（代表者）の交流会を行い、良い取組を横展開できるようにする。		2,568	人
2	(3)		地域の子育てオープンスペースの参加者を増やそう！	【指標】 地域の子育てオープンスペースの参加者数 【目標値の考え方】 2023年度実績の参加者数2,800人から、毎年度20人ずつ増やすこととする。		P18	支えあい		655	536	753	733	2,677	2,840	人		94%	○	【成果】 地域のオープンスペースの数は減っているが、1回の平均参加者数は増えている。 今後、必要に応じて新規の立ち上げ支援を行っていく。	・地域の子育てオープンスペースや「オンラインおしゃべり広場」について、家庭訪問時や乳幼児健診会場のモニターを活用し、効果的なPRを行い、参加を呼びかけていく。 ・地域の通いの場での多世代交流についても、家庭訪問時などにPRを行い、参加を呼びかけていく。		2,860	人
2	(4)	(ア)	医療介護関係者と地域団体が連携した活動を増やそう！	【指標】 医療介護関係者と地域団体が連携した活動実施か所数 【目標値の考え方】 2023年度実績の39か所から、今後、毎年度2か所ずつ増やす目標とする。		P19	支えあい		27	2	12	5	46	43	か所		107%	◎	【成果】 医師、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士等が地域活動の場に出向いて講演することで、住民の健康意識の向上につながっている。また、地域住民と顔の見える関係を築くことができ、地域全体が医療保健福祉とつながり・連携を持つことができる。	昨年度同様、医療介護関係者を地域の活動に積極的につなげる。		45	か所
2	(4)	(イ)	要支援者を地域で支えよう！	【指標】 対象者のうち、危険区域に居住し、かつ、家族等に支援を受けられない方について、個別避難計画を作成した人数 【目標値の考え方】 2024年度の作成人数を各エリア10人として40人としていることから、毎年度40人以上を目標とする。	1－(2)	P11	起・支		0	8	23	19	50	40	人以上／年		125%	◎	【成果】 「牛田新町」「早稲田」「矢賀」「福田」については、全ての取組対象者の個別避難計画を作成することができた。また、いずれの学区においても、対象者の心身の状況、居住地の災害危険性等を勘案した個別避難計画を作成することができた。 【課題】 心身の状況や避難の支援をする人がいないなどの理由により、個別避難計画を作成できない対象者が固定化しており、民生委員やケアマネジャー等に協力を得て、個別避難計画を作成する必要がある。また、電話や訪問を行っても連絡が取れない対象者がおり、個別避難計画の作成意思を簡易的な文書で確認するなどの方法で、個別避難計画の作成支援を行う必要がある。	引き続き、地域起こし推進課と地域支えあい課の地区担当職員が連携し、個別避難計画を作成する。 心身の状況や避難の支援をする人がいないなどの理由により、個別避難計画を作成することが難しい対象者については、民生委員やケアマネジャー等の協力を得て、個別避難計画の作成を進める。		40	人以上／年
2	(5)	(ア)	元気じゃ健診を受けよう！	【指標】 特定健康診査受診率 【目標値の考え方】 広島市国民健康保険第3期データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画で定められた目標値のとおりに設定している。		P20	支えあい		2	5	11	23	23 (※)	32	%		72%	○	【成果】 地域団体及び関係機関と連携することで、徐々に受診率が向上している。 【課題】 受診率向上の取組について、各団体が積極的な取組を行っており、年々受診率は向上しているものの、目標値を下回っている。引き続き、具体的な取組の評価を行いながら、関係機関と連携して取り組んでいく必要がある。 ※令和8年5月末暫定値である。令和7年度の受診率は令和8年12月頃に確定する。	・区役所広告モニターやFacebookを活用して全世代を対象にした受診勧奨メッセージの情報発信を行う他、地域団体・関係機関と連携し、各世代への効果的な受診向上の取組を実施。 ・医師会と連携し、医療機関における実施件数アップに向けた取組を実施する他、元気じゃ健診未実施医療機関での受診勧奨メッセージの情報発信を依頼。		34	%
									四半期末時点の受診率														
2	(5)	(イ)	野菜摂取量を増やすため、地元の野菜を食べよう！	【指標】 地元野菜を活用したレシピの開発数 【目標値の考え方】 毎年、夏野菜と冬野菜を使ったレシピを1品ずつ、計2品を開発する。		P21	支えあい		10	11	12	12	12	12	品		100%	◎	【成果】 ・若い世代に野菜摂取を啓発するため、すこやか食生活推進リーダー及びすこやか食生活推進サポーターの協力のもと、比治山大学及び広島女学院大学と小松菜を使った協働レシピを開発し、大学祭、食育講座及び木曜であい市で配付した。 ・これまでに作成したレシピは、Facebookや子育て応援アプリで情報提供するとともに、区役所職員食堂、二葉公民館、乳幼児健診、子育て世代向けの訪問事業等で配付した。	・大学連携事業を活用し、若い世代への啓発に努める。 ・木曜であい市、乳幼児健診会場のモニターや市公式SNS等を活用した情報発信を行う。 ・地元のスーパーマーケットと連携した取り組みを実施する。		14	品
									実績値は延べ数														
2	(5)	(ウ)	運動習慣を身につけよう！	【指標】 週1回以上、屋外活動を行っているグループがある地区数 【目標値の考え方】 全地区での活動が維持されることを目標とする。		P22	支えあい		13	13	13	13	13	13	／13地区		100%	◎	【成果】 ・13地区すべての地区で、週1回以上、屋外活動（ウォーキングや、ラジオ体操、グラウンドゴルフ等）を目的としたグループが活動している。必要に応じ、地区担当保健師等が、グループの活動支援を実施し、運動習慣の確立・定着に取り組んでいる。 ・日常生活の中で無理なく手軽に取り組んでいただくよう、ウォーキング教室を開催。その中で、健康ウォーキング推進者の活動を紹介することにより、令和7年度は、健康ウォーキング推進者に4名が新規登録された。	・地区活動の中で、必要に応じ、屋外活動をしているグループを紹介し、運動習慣の定着をはかる。 ・健康ウォーキング推進者の育成支援と活動の場の提供を行う。 ・令和8年5月から運用開始される、「とし歩deヘルスケア」のアプリの普及啓発を行い、ウォーキングの取組ツールとして活用。		13	／13地区

3 地域資源を生かした個性豊かなまちづくり

区 分									2 0 2 5 年 度							2 0 2 6 年 度					
大項目	中項目	小項目	具体的な取組	指標・目標値の考え方	再掲	取組シート	担当課	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度計	目標値（年度）		進捗率	評価	成果・課題等	取組方針等		目標値（年度）	
3	(1)		「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう！	【指標】 年間参加者数 【目標値の考え方】 2018年度実績が815人であったため、2020年度目標を830人とし、季節ごとに開催を予定している特別ガイド等の内容充実と、幅広い世代へ届けるための広報手段の工夫により、毎年度1％ずつ参加者を増やす。		P23	起こし	308	57	303	377	1,045	871	人	120%	◎	【成果】 各広報ツールにより参加を呼び掛け、「ふたばの日」（参加者287人）、「いつでもガイド」（参加者758人）を実施した。 【課題】 来訪者が多く見込まれる施設への散策マップ配布や観光情報サイトの活用など、参加者増加に向けた広報が必要がある。	「二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会」と協議しながら、季節ごとの特別ガイドなどを織り交ぜ、「ふたばの日」及び「いつでもガイド」を実施する。	879	人	
3	(2)		身近な自然に親しもう！	【指標】 自然観察会やハイキングイベント等での年間参加者数 【目標値の考え方】 2023年度までの過去5年間（中止を除く）の自然観察会牛田山ハイキングの各平均参加者数が合わせて約230人であったため、2030年度の目標を300人とし、毎年度10人ずつ参加者を増やす。		P24	起こし	50	0	160	0	210	250	人	84%	○	【成果】 天候不良により実施できなかったイベント（4月、8月）があったものの、自然観察会やハイキングイベント等を実施し、計210名の参加者があった。 【課題】 参加者が定員に達していないイベントもあることから、既存イベントの内容の見直しや、広報の方法について検討する必要がある。	既存の自然観察会等の実施を継続するとともに、都心の近くにある自然環境を活用したイベントについて積極的な周知を行い、参加者数の増加を目指す。	260	人	
3	(3)		「魅力と活力向上推進事業補助金」	【指標】 新規申請件数 【目標値の考え方】 2023年度までの過去7年間の新規申請件数が年平均2件、2023年度の新規申請件数が1件であることを踏まえ、今後毎年2件以上の新規申請件数を目指す。		P25	起こし	2	1	0	0	3	2	件以上／年	150%	◎	【成果】 1次募集において2件、2次募集で1件、合計3件の新規申請があり、目標を上回る申請を受け付けることができた。 【課題】 募集期間を過ぎて申請を希望する団体もあったことから、希望の多い地域には重点的に制度の情報提供を行う。	引き続き、区内の社会福祉協議会や公民館を中心に広報を行うとともに、申請の要望が多かった地区にはより詳細な資料を送付するなど、制度の周知に注力する。	2	件以上／年	
3	(4)		地域の大学と連携した取組を増やそう！	【指標】 連携事業件数 【目標値の考え方】 2023年度の連携事業件数18件を踏まえ、2年度ごとに1件ずつ連携事業を増やす目標とする。		P26	区・起・支	0	6	10	4	20	19	件／年	105%	◎	【成果】 昨年度から継続している事業のみならず、11月に実施した不動院プロジェクトマップなど新規事業も行われ、前年度を上回る数の事業を開催することができた。 【課題】 開催しても学生の参加がない事業もあったため、今後、参加人数の少なかった事業を中心に学生の参加を重点的に呼び掛ける。	大学からの要望を可能な限り受けることから、日頃から大学とのコミュニケーションを密に図り、連携事業を実施できるよう関係課との情報共有を行う。	19	件／年	
3	(5)		地元のトップアスリートを応援しよう！	【指標】 東区応援隊への参加者数 【目標値の考え方】 2023年度までの過去6年間（中止を除く）の参加者数の平均約50人を目標値とする。		P27	起こし	0	35	0	0	35	50	人	70%	○	【成果】 イズミメイブルレッズ広島や東区スポーツセンター、学区体育協会等と連携し、9月6日に東区応援隊による試合応援を実施した結果、35人が参加した。 【課題】 参加者数の増加に向け、広報等について検討する必要がある。	従来実施していた学区体育協会及び東区役所職員への呼びかけや応援パネル展の実施に加え、社協やLMOへのチラシの送付や、各種会合での説明など、積極的に広報を実施することで参加者数の増加を図る。	50	人	
3	(6)		「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう！	【指標】 年間来場者数 【目標値の考え方】 2018年度までの過去3年間で1回の来場者数が103人から80人に減少しているため、2020年度の目標を4,000人（1回80人×年50週）と設定し、毎年度50人ずつ（毎回1人ずつ）来場者を増やす。		P28	起こし	1,451	1,277	1,861	1,487	6,076	4,250	人	143%	◎	【成果】 計50回開催し、昨年度と比べ527人増となった。また、「年末くじ」や「豚汁のふるまい」のイベントを行ったほか、通常の開催以外にエキキタカラフルマルシェや東区スポーツセンターのスケート感謝祭などに出店した。 【課題】 継続して開催してきたことで、一定のリピーターの確保ができて一方、新規来場者数の増加が鈍化しているため、当取組の周知機会を増やし認知度を高める必要がある。	地元野菜を活用したレシピを配布するなど、野菜を購入してくれる来場者へのサービスを充実させてリピーター来場者を増やす。また、別のイベント等で「木曜であい市」のチラシ配布を行うなど、周知の機会を拡充し当イベントの認知度を高めることで、新規来場者の増加を目指す。	4,300	人	
3	(7)		子どもたちに地域の魅力を伝えよう！	【指標】 3者が学習支援を実施する学校等の数 【目標値の考え方】 2019年度は3者が4校で学習支援を行っており、2025年度に3者が各1校ずつ増やし7校にすることとし、2年ごとに1校ずつ増やすことを目標とする。		P29	起こし	2	1	3	0	6	7	校／年	86%	○	【成果】 区内の小学校等への情報提供を行い、6校で学習支援を実施した。 【課題】 学校のスケジュールを考慮し、早期に教頭会等への情報提供を行い、学習支援数の増加を諮る必要がある。	昨年実施した小学校等への学習支援を引き続き行うとともに、教頭会等への情報提供を行い、学習支援数の増加を図る。	7	校／年	

4 おもてなしの心あふれるまちづくり

区 分									2 0 2 5 年 度								2 0 2 6 年 度					
大項目	中項目	小項目	具体的な取組	指標・目標値の考え方	再掲	取組シート	担当課	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度計	目標値（年度）		進捗率	評価	成果・課題等	取組方針等		目標値（年度）		
4	(1)	(ア)	「エキキターレ」をエキキタのにぎわい広場として盛り上げよう！	【指標】イベント等でのエキキターレの利用日数 【目標値の考え方】2019年度の利用実績（見込み）30日を踏まえ、2025年度には、100日の利用（年間を通してイベントや移動販売車の出店等が行われている状況）を目指し、利用日数を増やす。		P30	起こし	52	49	64	51	216	100	日／年	216%	◎	【成果】各種イベントでのチラシ配布等により、エキキターレの利用増加を図り、年間で216日の利用となった。 【課題】移動販売車の利用は定着している一方、イベント利用がない月もあるため、引き続き、企業等と連携して効果的な広報等を行い、利用増加を図る必要がある。	イベント広報等を通じて、エキキターレの周知を図り、利用増加につなげる。	110	日／年		
4	(1)	(イ)	「エキキタ・ドリミネーション」を、エキキタのインスタスポットに育てよう！	【指標】参加企業・店舗数 【目標値の考え方】2018年度に23企業・店舗、2019年度に20企業・店舗の参加実績があり、2025年度の30企業・店舗を目標として、毎年、新規参加店舗・企業を増やす。		P31	起こし	0	0	32	0	32	30	企業・店舗	107%	◎	【成果】エキキタエリアの企業・店舗に参加を呼び掛け、32の企業・店舗でイルミネーションを実施した。 【課題】エキキタエリア一帯の回遊につなげるため、より多くのエキキタエリアの企業・店舗の参加を募る必要がある。	引き続き、エキキタエリアの企業・店舗に参加の呼び掛けを行う。	31	企業・店舗		
4	(1)	(ウ)	「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう！	【指標】年間参加者数 【目標値の考え方】2018年度実績が815人であったため、2020年度目標を830人とし、季節ごとに開催を予定している特別ガイド等の内容充実と、幅広い世代へ届けるための広報手段の工夫により、毎年度1％ずつ参加者を増やす。	3－(1)	P23	起こし	308	57	303	377	1,045	871	人	120%	◎	【成果】各広報ツールにより参加を呼び掛け、「ふたばの日」（参加者287人）、「いつでもガイド」（参加者758人）を実施した。 【課題】来訪者が多く見込まれる施設への散策マップ配布や観光情報サイトの活用など、参加者増加に向けた広報が必要がある。	「二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会」と協議しながら、季節ごとの特別ガイドなどを織り交ぜ、「ふたばの日」及び「いつでもガイド」を実施する。	879	人		
4	(1)	(エ)	「魅力と活力向上推進事業補助金」	【指標】新規申請件数 【目標値の考え方】2023年度までの過去7年間の新規申請件数が年平均2件、2023年度の新規申請件数が1件であることを踏まえ、今後毎年2件以上の新規申請件数を目指す。	3－(3)	P25	起こし	2	1	0	0	3	2	件以上／年	150%	◎	【成果】1次募集において2件、2次募集で1件、合計3件の新規申請があり、目標を上回る申請を受け付けることができた。 【課題】募集期間を過ぎて申請を希望する団体もあったことから、希望の多い地域には重点的に制度の情報提供を行う。	引き続き、区内の社会福祉協議会や公民館を中心に広報を行うとともに、申請の要望が多かった地区にはより詳細な資料を送付するなど、制度の周知に注力する。	2	件以上／年		
4	(2)		「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう！	【指標】年間来場者数 【目標値の考え方】2018年度までの過去3年間で1回の来場者数が103人から80人に減少しているため、2020年度の目標を4,000人（1回80人×年50週）と設定し、毎年度50人ずつ（毎回1人ずつ）来場者を増やす。	3－(6)	P28	起こし	1,451	1,277	1,861	1,487	6,076	4,250	人	143%	◎	【成果】計50回開催し、昨年度と比べ527人増となった。また、「年末くじ」や「豚汁のふるまい」のイベントを行ったほか、通常の開催以外にエキキタカラフルマルシェや東区スポーツセンターのスケート感謝祭などに出席した。 【課題】継続して開催してきたことで、一定のリピーターの確保ができている一方、新規来場者数の増加が鈍化しているため、当取組の周知機会を増やし認知度を高める必要がある。	地元野菜を活用したレシピを配布するなど、野菜を購入してくれる来場者へのサービスを充実させてリピート来場者を増やす。また、別のイベント等で「木曜であい市」のチラシ配布を行うなど、周知の機会を拡充し当イベントの認知度を高めることで、新規来場者の増加を目指す。	4,300	人		
4	(3)		東区を花でいっぱいにしよう！	【指標】花づくり活動団体数 【目標値の考え方】2019年度実績が40団体であるため、2020年度目標を42団体とし毎年1～2団体の増加を目指す。		P32	起こし	48	48	48	49	49	50	団体	98%	○	【成果】昨年度に引き続き計49団体の申請を受け付けることができた。活動団体員の高齢化で活動を中止する団体もある中、新規申請を3件受け付けた。 【課題】花づくりを行える公園等の公共用地で、まだ活用されていない場所が見受けられるため、支援制度の広報に力を入れ、活動を充実・強化する必要がある。	既存団体を引き続き支援するほか、町内会等へ本事業のチラシを提供するなど、支援制度の周知に注力し、新しい活動団体を発掘する。	51	団体		
									実績値は2020年度からの延べ数													